

福音の園だより

平成十八年度、高齢者雇用優良事業所協会会長賞 受賞

TBSラジオ『メイコのいきいきモーニング』取材放送

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定

350 0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎049 230 1111 FAX230 1112

福音の園® Gospelgarden® は有限会社シャロンの商標

「つながら」ために」と題して発表しました6.1.

新年度・理念方針説明

「心の機微」を見失うことなく、

グループホーム 福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳

昨年、『ターミナルケア基礎研修 終末期のケア

を実践するため』を受講した職員による研修報告を

全員出席した『スタッフ研修・会議』の中で学んだ。

講師が紹介したと云つ、二つの名文に深く共感した。

『身体的ケア能力が高くて、そこに情緒的な交流がな

ければよいケアではない。』（渡邊俊之著「ケアの心理学」）

『ケアという実践』は、「心の機微」をきちんと理解し

た上でなされなければならない。』（森村 修著「ケアの倫理」）

席上、この「情緒的な交流」「心の機微」を、次年度の

「良いケアの為の主要課題」にしようとした。

「情緒的な関わり」とは、人が持つ「情感」に訴

えるもの（喜怒哀楽などの情感を伴うもの） 「ひ

とりの人」として、大切にされていると感じられる

もの。それには、職員一人ひとりが自分自身の感性

を磨く。自分の「介護観」だけでなく、「生死観」や

「人生観」をきちんと持てるような、人間としての成長が必須だ、と改めて見つめ直した。

「情緒的な交流」「心の機微」を「深耕」しようと張り

上げたアンテナに「響心」したのが「償うくない」と

『いのちの理由』。この2曲が収められた「さだまさ

しオールタイム・ベスト・アルバム」(CD3枚組を

買い求めた。さだまささんのCDは初めて。

若き日に流れた『関白宣言』は衝撃な歌だった。

20代の若者が生老病死を歌うことに世間が驚いた。

そのためか、一部の人たちに歌の本質を曲解された

節がある。その一曲が『関白宣言』だった。

1979年、初出・発売されるや社会問題にまで

発展した。「これは女性蔑視の歌だ」と騒がれ一斉に

暗い、めそめそしている、古い価値観…、などと

批評された、懐かしい時代だった。

『市井しせいの人々のささやかな人生の応援歌を歌

い続けたさだまさし。『愛』という曖昧な言葉で

はなく、「たいせつなひと」という具体的な

対象をおくことで深い愛を表現している。』

と、各曲を解説する冊子が紹介していた。

あれから35年経ち、時を経て、親とな

り孫を膝に抱く身となって、改めてこの曲の本当の

良さを知ったと言われる方も多い。一人になった。

「高齢者福祉現場に生きる」今、この歌が現実味を

持って迫って来るようになった。『老いていく』終

わっていく』為の準備、『看取りこそ 高齢者介護に

おける尊厳の究極だ!』とアピールしていきたい。

『関白宣言』 作詞・作曲・歌 さだまさし

お前を嫁にもらう前に 言っておきたい事がある

かなりきびしい話もするが 俺の本音を聴いておけ

俺より先に寝てはいけない

俺より後に起きてもいけない

めしは上手く作れ いつもきれいでいる

出来る範囲で構わないから

忘れてくれるな 仕事も出来ない男に

家庭を守る はずなどないってことを

お前にはお前しか 出来ない事もあるから

それ以外は口出しせず 黙って俺についてこい

お前の親と俺の親と どちらも同じだ大切にしろ

姑 小姑 かしここなせ

たやすいはずだ 愛すればいい

人の陰口言うな聞くな

それからつまらぬシットはするな

俺は浮気はしない たぶんしなないと思う

しなないんじゃないかな

ま、ちよっと覚悟はしておけ

幸福しあわせ は二人で 育てるもので

どちらかが苦労してつくるものではないはず

お前は俺の処へ 家を捨てて来るのだから

帰る場所は無いと思え これから俺がお前の家

子供が育つて年をとったら

俺より先に死んではいけない

例えばわずか一日でもいい

俺より早く逝ってはいけない

何もいらぬ 俺の手を握り

涙のしずく ふたつ以上こぼせ

お前のお陰で いい人生だったと

俺が言うから 必ず言うから

忘れてくれるな 俺の愛する女は

愛する女は 生涯お前ひとり

忘れてくれるな 俺の愛する女は

愛する女は 生涯 お前ただ一人

御礼 コンサート アンサンブル・スピカ様 3名

